

居住者の方へ

1. 【海外から帰国・入国した学生に対応していただくこと】

帰国・入国の翌日から起算して14日間の自宅待機・外出自粛・体調管理表の作成。



【体調管理表】

<https://webfs.adm.u-tokyo.ac.jp/public/sMNYwAclSgzAFh0BGONx0Ns4ewVlfvXH1WTtOyC-D39a>

「息苦しさ」「強いだるさ」「高熱」等の強い症状や、発熱や咳などの風邪症状を呈した場合には、すぐにその旨電話あるいはメールで宿舍管理室に連絡する

2. 【居住者全員に対応していただくこと】

- 感染症の予防や対策として体温計、マスク、消毒液等を準備しておく。体調の悪い時は検温する。また、マスクは最低2週間分を用意しておくのが望ましい
- 手洗い（ドアノブや水道の蛇口など不特定多数で使用する物に触れた時は特に）、うがいを徹底する
- 咳エチケットを徹底する
- 不用意な外出や集会、人混みを避ける。日々の買い物も3日に1度程度にする
- 荷物の宅配は、宅配ボックスを利用する。宅配ボックスが無い宿舍や食事の宅配については直接触れないで受け取る方法を業者と調整する（宿舍内に宅配業者を入れない）
- 握手等、至近距離での人との接触を極力避ける
- 飲食を伴う参加者同士の会話が多いパーティなどは中止・延期する
- 共有スペース等を使用する際には、「換気を励行すること」「人の密度を下げること」「近い距離での会話や発声を避けること」について注意する
- 飛沫感染を防止するため、食事の時間をずらしたり、居室で食べるなど、同時にダイニングを利用する人数を減らす。共有スペース等（ラウンジ、共用棟ホール）での食事や運動はしない
- いつでも医療機関を受診できるように、健康保険証または遠隔地証明書を準備しておく
- 自宅や居住地周辺の医療機関やその診察時間、電話番号などをあらかじめ調べておく
- 万一、罹患して自宅安静や外出自粛となった場合に備えて、最低2週間分の食料（保存が可能な食品、缶詰等）や飲料水等を用意しておく
- 「息苦しさ」「強いだるさ」「高熱」等の強い症状や、発熱や咳などの風邪症状を呈した場合は、すぐに宿舍管理室に電話やメール連絡する。感染症の拡大を防ぐため、絶対に直接宿舍管理室に行かないこと
- 感染防止の一環として、宿舍管理室に用事がある時は、なるべく電話やインターフォンを利用する
- 基礎疾患*のある人は罹患した際に重症化しやすいため、事前にハウジングオフィスまで情報共有をしておくことが望ましい。

E-mail: housing-office.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

※基礎疾患のある人とは以下を指す。

- ・糖尿病、心不全、呼吸器疾患のある人
- ・透析を受けている人
- ・免疫抑制剤や抗がん剤を使用している人